

田植え後 25 日に茎数を確認 茎数急増に遅れないで早めに中干し開始

1 中干しまでの水管理 ～浅水管理とワキ対策～

- ・ 活着後は浅水とし、水温の上昇を図って分けつの発生を促しましょう。
- ・ ワキの発生が多い場合は、夜間落水によるガス抜きを行って土壤へ酸素を供給して根を健全に保ちましょう。
- ・ 天水田等、用水の少ない地域でワキの発生が多く、下葉が枯れ上がるなどする場合は、降雨を利用した水の入れ替えや中耕等により、ガス抜きを行いましょう。

2 中干し・溝切りの徹底

(1) 中干し・溝切りの効果

- ① 無効分けつを抑え、適正な穂数にする。
- ② 下位節間の伸長を抑え、倒伏を軽減する。
- ③ 土壤へ酸素を供給し、根を健全に保つ。
- ④ フェーン時の迅速なかん水を可能にする。
- ⑤ 地耐力を確保し、コンバインの収穫作業を容易にする。

- ◆ 適正な籾数の確保
- ◆ 適切な穂肥施用、後期栄養が持続

収量・品質の向上

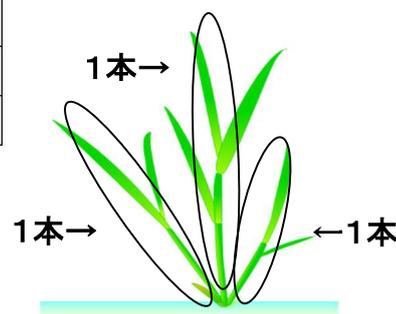
(2) 中干し（落水）開始の時期（天水田は除く）

- ・ 茎数が目標穂数の80%になったら中干し開始（落水）の適期です。
- ・ 「コシヒカリ」の中干し開始時の茎数のめやすは50株植えて1株当たり17本、60株植えて1株当たり15本です。

表 品種別中干し開始時茎数のめやす

品 種		1株当たり茎数(本/株)			目標穂数 (本/m ²)
		50株 植え	60株 植え	70株 植え	
つきあかり	平坦地	—	15	—	340
	中山間地	—	—	12	320
こしいぶき		—	15	—	350
コシヒカリ		17	15	—	330

茎数の数え方
葉が2枚以上
出ている茎を
1本と数える。



- ・ 近年、田植え後は気温が高いため、茎数の急増に注意が必要です。必ず田植え25日後に茎数を確認し、早めに中干し（落水）を開始しましょう。

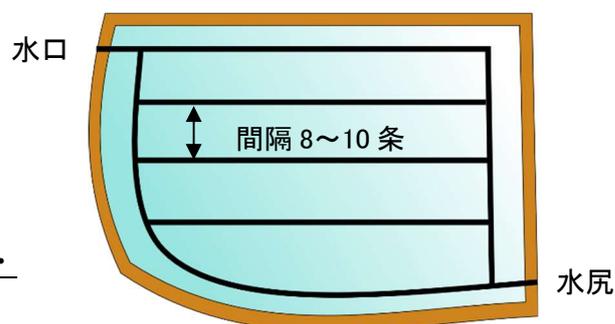
例 5月10日 田植え → 6月4日 茎数確認

落水時期を判断し、早めに中干し開始

(3) 溝切り

- ・溝切りの間隔は8～10条おきとし、深さ10cm以上を確保しましょう。溝の端は必ず排水溝につなげましょう。

◎天水田等では用水の確保状況に応じて中干し・溝切りを実施してください。



溝切りのイメージ

(4) 田面に小ヒビが入ったら中干し終了

- ・中干しの程度は田面に小ヒビ（幅1cm以内）が入り、軽く足跡がつく程度です。
- ・大ヒビが入るような強い中干しは、根が切れて稲の体力が落ち、米の品質に影響するので注意してください。
- ・中干しは、遅くても出穂1か月前には、終了してください。
- ・中干し終了後は、浅水の間断かん水を実施し、うわ根の発根促進や根の健全化を図り、徐々に飽水管理に移行します。



中干し終了（田面に小ヒビが入った状態）



飽水管理の状態

3 病虫害防除

(1) いもち病

- ・補植苗はいもち病の伝染源となるため、ほ場に放置せず早めに撤去しましょう。
- ・コシヒカリ BL を含め山間山沿いやいもち病多発地で、は種時や田植え時に予防粒剤を散布していない場合は、6月中旬までに本田に予防剤を必ず散布しましょう。

(2) 斑点米カメムシ類

- ・カメムシ類の生息地となる農道・畦畔などの草刈りを徹底してください。
- ・草刈りはカメムシ類のエサとなるメヒシバ、エノコログサなどのイネ科雑草が穂をつけない間隔で行いましょう。（6月上旬以降は3～4週間隔がめやすです。）
- ・水田内のヒエ、ホタルイもカメムシ類の増殖源となるので雑草の発生に注意しましょう。

お問い合わせ：上越東農林事務所 普及課 作物担当

TEL：025-592-3848 FAX：025-592-3591